

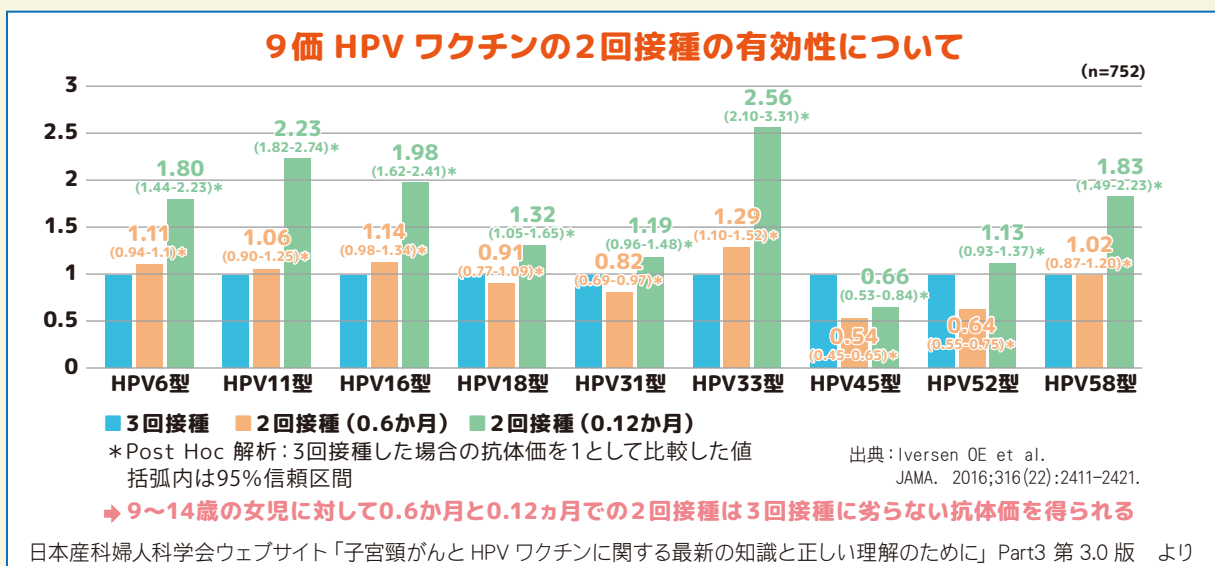
## 9価 HPV ワクチンは14歳までなら2回でもよいて、どうして？

婦人科部長 衛藤 貴子

HPV ワクチン（いわゆる子宮頸がんワクチン）の中でも、これまで自費であった、より効果の高い9価ワクチンが、この4月から定期接種、キャッチアップ接種（1997～2006年度生まれ女子）のどちらでも、公費でうけられるようになりました。子宮頸がんの原因のウイルスの約90%の感染をふせぎ、その結果、頸がんになるのを予防することができます。

HPV ワクチンは3回接種が基本ですが、9価ワクチンでは、15歳の誕生日の前日までに1回目を接種した場合は2回の接種（2回目は6-12か月後）でもよいことになりました。9-14歳では、9価ワクチンの2回接種後の抗体陽性率と抗体価の上昇が、3回接種と比べて劣らないということによります。海外からの報告のひとつを以下に示します。

この報告には続きがあって、初回接種から3年後まで抗体価を測定して、2回接種は3回接種に劣らないという結果でした。また、9-14歳の2回接種は、16-26歳の3回接種と比べた場合、抗体価は同等か、むしろ高くなっています。同じ接種するなら、少しでも早いほうがよさそうですね。



### 定期接種は小6～高1相当女子 15歳のお誕生日の前日までに接種を考えましょう

世界中の多くの国で HPV ワクチンは14歳以下の2回接種が主となっています。高校1年生相当までは定期接種だからと先延ばしにせず、早めの接種を検討してください。

そもそも、日本でも推奨しているのは中学1年生です。9価ワクチン2回接種の場合の2回目は、初回から6～12か月後です。セクシャルデビュー前に接種することが最重要であることもお忘れなく。

### 世界では

最近では、1回接種についても検討がすすんでいます。世界には、HPV ワクチン接種プログラムや子宮頸がんの定期検診を実施するための医療基盤が不十分な医療資源が乏しい国がたくさんあります。1回接種でも十分であれば、世界の子宮頸がん予防がさらにすすみやすくなります。

WHOは2030年までに、全世界の女兒の90%に15歳までの HPV ワクチン接種を目標としています。

また、HPV 感染によっておこるがんは子宮頸がんだけではなく、世界的には男女ともに HPV ワクチンの公費での接種がすすんでいます。厚生労働省でも検討中です。



HPV ワクチン (4価・9価)

定期接種: 小6～高1相当女子

キャッチアップ接種: 1997～2006年度生まれ女子

※15歳未満の9価ワクチンは2回接種になりました。その他は3回接種。

対象の方に、ご自身で十分に考えて、安心してワクチン接種をしていただけるよう、当院では有効性、副反応のリスクなどについての説明に努めています。  
 お問い合わせは婦人科外来まで (病院代表) 092-541-4936

